

アクア・リプル・ネットワークは、流域3市の住民で構成され、それぞれ市の支援により活動を続けています。

●アクア・リプル・ネットワーク会員さんから一言

長見さん：高知市で障害者支援の仕事をしています
蛇口をひねると当然のように出てくる水。どのようにして届いているのでしょうか。この水を私たちに届けてくれる物部川や森のことを一緒に考えてみませんか。



柳田さん：JA とさかみの女性部長です
仕事もあり、イベント当日にはなかなか参加が出来ませんが会員のみさんと今年はどうしようかと企画するのは楽しいですよ！



横田さん：
南国市在住
人生の折り返しは再就職を断り、ボランティアの掛け持ちをしています……。



物部川の豊かな水と森づくりを考える
アクア・リプル・ネットワーク

福井さん：香南市で、手作りのお菓子屋をしています
物部川の課題を知ることから始まり、ゆずの収穫応援や川の清掃など、自分が出来る範囲の活動をしてきました。多くの方たちとの出会いが私の大事な宝物です。



原さん：香美市で鍛冶屋を営んでいます
毎年夏休みには、多くの小学生に参加していただき、山のこと川のことを一緒に勉強することを楽しみにしています。元アマチュアレーサーです。

公文さん：自営業の傍ら、柚子栽培をしています
アクアリプル結成当初に見た山の荒廃と物部川の河口閉塞に驚き、一方、森からはぐくまれるものに心を動かされ20年が経ちました。香美市林業婦人部にも所属し、あちこちのイベントでシカ肉カレーや猪汁を作っています。香美市在住。

岩神さん：香南市在住で、アクア・リプル・ネットワークの座長をしています
流域の大切な財産である物部川や上流の森の変化をみんなで知ってみませんか。また、この財産を次の世代に繋いでいくためには、どうすれば良いかも考えてみませんか。

今後も行政の支援を受けながら、物部川流域住民の皆さんに、物部川の現状を見て、体験していただきたいと思っています。そして、参加して下さった方々とネットワークを活かし、森と川と海がつながる、物部川流域の環境と、私たちの生活とのかかわりを考えていただく、様々な活動を行っていきます。

発行/アクア・リプル・ネットワーク 物部川流域ふるさと交流推進協議会

■お問い合わせ先
香美市定住推進課 〒782-8501 高知県香美市土佐山田町宝町 1-2-1 TEL 0887-53-1061 FAX 0887-53-5958
香南市地域支援課 〒781-5292 高知県香南市野市町西野 2706 TEL 0887-57-8503 FAX 0887-56-0576
南国市企画課 〒783-8501 高知県南国市大浦甲 2301 TEL 088-880-6553 FAX 088-863-1167



物部川の豊かな水と森づくりを考える
アクア・リプル・ネットワーク

いつまでも元気な物部川にするために
私たちと一緒に
楽しみながら活動しよう!



アクア会員
募集中!



平成27年度
やっぱり大好き物部川コンテスト
大賞作品「ものべ」

元気な物部川を取り戻したい

～流域で活動する団体～

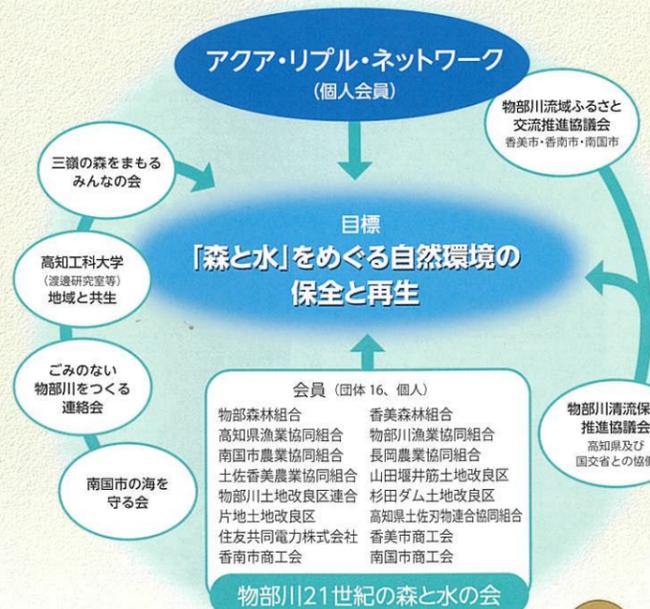
高知県の一級河川は、四万十川、仁淀川、そして物部川です。でも、昔と比べ一番大きく変わってしまったのは物部川かもしれません。

治水や利水のためのダム建設、洪水抑制のための護岸改良などだけでなく、自然災害による山の崩壊など、昔の豊かな森や河川が失われつつある姿に危機感を持った流域の行政や住民が、物部川を守るために活動を始めました。

平成8年、行政組織として「物部川流域ふるさと交流推進協議会」を、民間組織として「アクア・リプル・ネットワーク」を設立し、物部川と向き合ってきました。

現在では、流域の各種団体が連携し合いながら自然環境保全を目指す「物部川21世紀の森と水の会」の活動も広がりを見せています。

アクア・リプル・ネットワーク連携図



物部川河口

かつての物部川には豊かな水量があり、太平洋に向けて広がる河口からは、アユやノボリコ(ゴリの稚魚)が遡上するなど、豊かな恵みであふれていました。上流域の過疎化と共に、森林荒廃、自然災害による河川の水質悪化や、流量の減少など、新たな問題が提起されるようになりました。



2005年(平成17年)



2014年(平成26年)
※写真提供:国土交通省 高知河川国道事務所



物部川 history

昔の戸板島

物部川は江戸時代からその豊かな取水で香長平野をうるおし、土佐藩の経済に大きく貢献しました。今も香長平野は県内最大の穀倉地で、施設園芸や稲作も盛んです。

戸板島

今では川の水も少なく、中流域でも歩いて渡れるような物部川。しかし昔は河口に近い戸板島橋周辺の水量も豊かで、アユを求めてたくさんの人たちが集まり、河原だけでなく、川に船を並べて投網や釣りを楽しんでいました。



1960年(昭和35年)頃



戸板島(右岸) 2018年(平成30年)



MONOBEGAWA MAP

さおりが原 シカの食害

樹齢200年以上の巨木や原生林の宝庫で渓谷と原生林の魅力を堪能できるコースとして大人気の「さおりが原」。しかし野生のシカによる食害の深刻化で、スタケ群落などの林床植物が壊滅してしまいました。



2003年(平成15年)



2016年(平成28年)

三嶺の森 シカの食害

県下最大の貴重な自然林である「三嶺の森」、稜線部の笹原も、シカが樹皮や笹原を食べ尽し、その7割が被害にあい枯死する樹木も増加しています。保水力を失った山は、山林崩壊や土砂崩れなどの危険性が高まっています。



2017年(平成29年)

「自然林保全」

物部川源流の原生的自然は、豊かな生物多様性、高い保水力だけでなく、崩壊を防ぐ力がありました。シカ食害により原生林は衰退しており、保全活動が大切になっています。

「林業・森林保全」

間伐や植林など、豊かな森林は人の手によって護られ、数十年、数百年の時間をかけて、高知の山林を豊かな資源に育て物部川流域の暮らしに多くの恩恵をもたらしてきました。

「工業」

地域の繁栄になくてはならない産業を支えるのも水。地下水も川と同じ、山林や森が蓄えた水です。

香美市

山田堰

江戸時代前期に野中兼山が築造した物部川の主流にある灌漑用堰です。300年以上物部川の水を取水し香長平野をうるおし、米収を得ると同時に舟入川の運輸利用で経済に貢献しました。

統合堰(町田堰)

かつては豊かな流れがあった河川ですが、たびたび濁水に見舞われる中、生き物の減少が心配です。上流に遡上する魚たちを誘導するために造られた「魚道」も、濁水時には干上がってしまい機能が果たせていません。



町田の渡し 1960年(昭和35年)頃



町田堰魚道 2017年(平成29年)



昔の落ちアユ漁の風景
1980年代(物部川下流域)
かつては川面が匂立つほどのアユがいたという物部川。その記憶が今も鮮明に残っている人だちも多いはず。物部川の自然を守る取り組みに、たくさんの方たちに参加していただきたいです。



昔の山田堰
夏ともなれば多くの子どもたちが詰めかけた「山田堰」。堰を超える豊かな水辺は格好の遊び場でした。そうした体験でつながる物部川との記憶、子どもの頃の思い出となる機会も今はなくなり、地域の自然環境への関心も失われていまいか。



森林がもたらす物部川流域の暮らしを「まもり、はぐくみ、楽しむ」ための取り組み

あなたも「アクア・リプル・ネットワーク」に参加しませんか？

私たちは、物部川だけでなく、物部川を取り巻く森、水、そして海などへ広がりをもった取り組みをしています。子どもたちだけでなく、大人も一緒になって自然を体験し、学び、遊ぶことを通して豊かな自然を少しでも取り戻し、その財産を次世代へとつないでいくために、メンバーで考え行動しています。

こんなわたしたちに共感していただけるあなた、物部川に関心のあるあなた、仲間としてあなたの力を貸していただませんか。

参加メンバー募集中！

※お問い合わせは3市まで

興味のある事や、得意なことは違ってても、物部川流域の自然を大切にしたい！物部川をなんとかしたいという思いを共有できる方なら、どなたでも大歓迎！

【主な活動】

①一緒に考えましょう！

2ヶ月に1回、会員が集まって、イベントの企画などを話し合っています。

②一緒に楽しみましょう！

自分たちも楽しみながらでないと、周りの方を楽しませることはできません。ほかの団体と一緒に行事を楽しむことで、物部川への理解者を増やす取り組みを行っています。

山歩きが好き

火起こしができる

昔の物部川が良かったと思う

アユが好き

子どもたちと自然の中で遊びたい

キャンプが好き

ジビエに興味あり

時々自然の中でゆっくりしたい

アメゴの塩焼きが好き

物部川には大事な思い出がある

★アクア・リプル・ネットワークでは、自分たちで考えたこと、それぞれができることを持ち寄って、協力し合いながら活動をしています。

すべての活動に参加できなくても、一緒に考えたり、楽しんだり、できる範囲でご協力ください。まずはお気軽にご参加ください♪

環境学習バスツアー

平成9年からの取り組みで、当初は物部川の抱える課題を知ってもらいたいと、行政職員や流域住民を対象にダムの見学や水質検査、上流部から河口部までの現地視察等を行っていました。

平成23年頃には物部川の未来を担う子どもたちが川とふれあうきっかけをつくり、もっと川に関心を持ってもらいたいという思いから川遊びを取り入れました。

毎年山や川について学習し、昼食には香美市林業婦人部による手作りシカ肉カレーなどを食べた後、香美市香北町の日ノ御子キャンプ場で川遊びをしています。毎年参加している児童もあり、夏休みのかけがえのない思い出となっています。



やっぱり大好き物部川コンテスト

子どもたちに川に関心を持ってもらいたいと、いろんなテーマで物部川に関する作品を募集。当初の応募数は100人程度でしたが、平成29年には800人を超えています。

〈2017年 物部川大賞作品〉

●絵てがみ



大人の部



子どもの部

●ありがとう・ごめんね作文

「物部川の河原で父と2人きりでたこあげをしました。特別な時間をありがとう。」

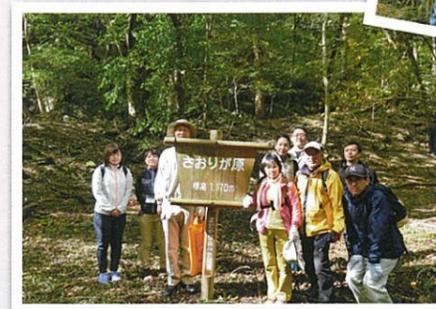
環境学習バスツアーに参加してどうだった？

- もっと魚の構造を知りたくなった
 - よもぎの葉っぱが水中めがねのくもり止めになったよ
 - 木などで物作りもしてみたい
 - 海の生きものについても知りたくなった など
- 「もっとキレイな川で泳ぎたくなった」
「川を守る活動に参加したい」と頼もしい声も聞かれました。



さおりが原見学バスツアー

平成27年から行政職員を対象に、さおりが原でシカの食害被害の現状を知る取り組みを続けています。初めて参加した職員は、その被害のすさまじさに驚き、流域の様々な団体による長年の努力の積み重ねにより、自然が再生されている事実を知るきっかけにもなっています。



森のこと、海のこと、水のこと、物部川のことをもっと知ってほしい。楽しみながら、未来の物部川のことを一緒に考えてみませんか？



物部川の豊かな水と森づくりを考える アクア・リプル・ネットワーク これまでの取り組み

●環境学習バスツアー ※()内は参加人数

- 1997年8月：物部川河口～物部村笹深谷(現地視察)
- 1999年2月：物部川河口～物部川河口(現地視察)
- 2000年5月：物部村別府～物部川河口(現地視察)
- 2002年2月：物部村大橋～物部川河口(現地視察)
- 2003年2月：物部川河口～香北町(現地視察のあと環境学習)
- 2004年3月：赤塚山モデル団地～日ノ御子
- 2005年3月：物部村大橋～別府峡(現地視察)
- 10月：ゴミのない物部川をつくる連絡会と連携
- 2006年1月：行政関係者向け

2007年5月：地曳き網体験
10月：間伐体験

2008年3月：舟入川～三叉
(現地視察のあと間伐体験)

2009年8月：物部川河口～三叉
～合同堰(現地視察)

2010年8月：間伐した森林視察

2011年8月：川遊び

2012年：以降川遊び企画として定着

2013年：環境学習・日ノ御子で川遊び・水中生物の勉強(45人)

2014・2015年：雨天・増水により中止

2016年：山の勉強・日ノ御子で川遊び(41人)

2017年：のこぎりのお話・日ノ御子で川遊び(57人)



●やっぱり大好き物部川コンテスト

※()内は応募数

- 2010年10月：写真(22点)、絵てがみ(59点)、紙ねんど(3点)
- 2011年10月：俳句(170点)、絵画(8点)、作文(2点)
- 2013年 1月：俳句(783点)
- 11月：キャッチフレーズ(384点)、写真(15点)
- 2015年 1月：川柳(922点)、絵てがみ(247点)
- 2016年 1月：絵てがみ(185点)、キャラクター(488点)
- 2017年 1月：絵てがみ(455点)、作文(120点)
- 2018年 2月：絵てがみ(742点)、エコ活動(79点)

●さおりが原見学バスツアー

※()内は参加人数

- 2015年10月：(10人)
- 2016年11月：(14人)
- 2017年10月：(12人)



物部川は香美市、香南市、南国市で暮らす私たちにとって、とっても大切な川なんだよ

未来のために、今できることを一緒に考えてみよう!

香美市は物部川の始まりの場所。山間部での間伐作業が、森林が育む水源を守ります。香南市や南国市では、豊かな水を活用して農業や工業が盛んです。でも近年、生活用水による水質悪化や、濁水・濁水の問題が環境汚染へとつながり様々な課題を抱えているんだよ。



物部川は昔と違ってどんなに変わったの?

昔の物部川は水量も多くて、水も澄んでいたんだよ。



山に降った雨は、山に蓄えられて少しずつ川に流れ込んでいるんだ。でも森林の手入れ不足なども影響して山崩れが起きるなど、保水力が弱くなってきたんだ。またダムや堰をつくって、その水を流域の平野部に流れる小さな川にも分けることで、農業や産業にも使えるようにしたんだ。川に流れる水はますます少なくなって、今度はダムに蓄えられた水が、濁りを浄化しきれないまま川に流れることで、川にも泥が堆積し、濁りが長く続く現象が起きているんだよ。

例えば、赤磯の淵を見ると...



1990年(平成2年)頃



2013年(平成25年)



いつから、どうして水が少なくなったの? 濁ってきたの?

●濁水事例



日ノ御子合流点
2005年(平成17年)9月台風の後

治水や水量の安定確保のために造られたダムも時として長期の濁水を引き起こす。手前から流れ込む日ノ御子川の水はきれいに澄んでいる。

●濁水対策 浅水代掻き



※写真提供: JA 南国市

春先の耕うん時に水田の水を浅くしプラスチックの板で止め、水路に水をささない手法のことで、濁水対策としてJA南国市が中心となり平成24年から取り組み始めた。

一度失った自然を取り戻すのは、とても難しい事なんだ。でも、みんなが力を合わせて少しずつ頑張っているんだよ。



じゃあ、どんなことをすれば昔の川を取り戻せるの?

山の保水力を高めるために、森林の伐採や植林を適切に行ったり、田植えの時期に川に濁った水を流さない、浅水代掻きの取り組みも広げているんだよ。流域で暮らす人たちの川への意識が高まり、環境にいい取り組みに参加する人たちが増えれば、少しずつでも自然を取り戻せるんじゃないかな。だから君たちにも、一緒に行動してもらいたいんだ。

●濁水事例 高齢化や人口減少で手入れができなくなった山は、保水力が低下し、生み出される水量も不安定になっています。



岡西 2008年(平成20年)



重機による河口開削の様子



濁水時には機能が果たせない統合堰の魚道



間伐作業の様子

●濁水対策

山の保水力を高めるためにも必要な間伐作業

3市の取り組み

平成8年に旧野市町と旧物部村で設立した「物部川流域ふるさと交流推進協議会」(行政組織)は、平成11年4月以降流域の5市町村が加入し、流域全域のものとなりました。平成18年3月の市町村合併により、現在は香美市・香南市・南国市の3市で構成され、流域で活動する環境保全団体に助成金を交付する他、民間組織である「アクア・リプル・ネットワーク」の事務局としてイベントの企画運営を行っています。また、平成28年度には、高知県が推進する「協働の川づくり事業」として、流域では初めて(株)あさの・高知県・物部川流域ふるさと交流推進協議会の三団体がパートナーズ協定を締結しました。さらに平成29年度には、(株)伊藤園とも協定を締結し、流域住民・行政・民間企業が一丸となって物部川を守ろうという動きに発展しています。



「高知県清流保全パートナーズ協定」



2017年(平成29年)2月15日
株式会社あさの、高知県、物部川流域ふるさと交流推進協議会



2018年(平成30年)1月15日
株式会社伊藤園、高知県、物部川流域ふるさと交流推進協議会

これまでの取り組みからピックアップイベント



岩神座長

- ★1996年8月: 物部川流域ふるさと交流推進協議会(行政組織)設立のいち・ものべ村交流会議(旧野市町と旧物部村の民間組織)設立 ※通称アクア・リプル・ネットワーク
- ★1997年3月: 第1回のいち・ものべ村交流会議シンポジウム「森がつくる、水をつくる、わたしたち」開催 <岩神座長談> このシンポジウムにはCWニ科尔さんや阿川佐和子さんがゲストパネラーとして参加してくれました。当時、環境保全を意識している人が周囲にあまり居らず、初めてのイベント企画だったので、何から初めて良いかわからず、シンポジウムのキャッチフレーズをどうするか悩みました。

- ★1997年11月、1998年11月: ユズ収穫体験「ユズ狩り応援隊」開催 <岩神座長談> 物部村のユズ収穫時期に、総勢30人が参加(物部村職員、野市町職員、アクア会員)、収穫を手伝いました。袖子はトゲが多いので大変でしたが、これを機に地域と行政との交流ができました。



- ★1999年～2001年は毎年10月、2002年8月、2003年10月: 物部川源流地球元気村開催 <岩神座長談> 自然の中での人間の生き方や家族の大切さを学ぼうという活動をしている「NPO地球元気村」。物部にも宇崎竜童さん他たくさんの方たちがゲストとして参加してくれました。「田舎の良さを話し合うシンポジウム」を開催し、地域の暮らしを体験しました。物部村の職員の皆さんが主導で動かしてくれた企画です。



- ★2006年: 町村合併を経て3市連携 <岩神座長談> 物部村、香北町、土佐山田町が香美市に、野市町、吉川村、赤岡町、香我美町、夜須町が香南市に合併したことで物部川流域すべての行政が「物部川流域ふるさと交流推進協議会」に参加しました。流域全体で物部川について考える体制が整い、上流域から下流域までの住民と行政が一緒に考え行動することが可能になりました。

